

AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2003. 5.15 第7号

転換期を迎えている経済学部

経済学部学部長 堀場 勇夫



創立50周年が過ぎ、現在、大学および経済学部ともども、多くの意味で転換期を迎えております。本年4月より、相模原キャンパスが開学し、長年に亘った青山・厚木・世田谷の3キャンパス制より青山・相模原の2キャンパス制に移行しました。このことは単にハードの意味で

キャンパスが相模原に移転した以上の意味を持ち、青山学院大学が21世紀に向けての新たな戦略を展開していることを示しております。

また、「新しい酒を新しい皮袋に盛る」のたとえのごとく、新しいキャンパスでは「青山スタンダード科目」という、新たな教養教育が全学的に実施されております。これは、青山学院大学の学生は少なくともこれくらいの教養を身に付けて卒業してもらいたいという思いをカリキュラムに具現化したものであり、新しいハードの上にカリキュラムという新しいソフトを構築したものであります。経済学部においても、この新たな教養教育

システムに積極的に参画して参りましたが、今後専門科目群をこの教養科目群に対応させていく段階となっています。

また、現在の経済学部にとっての最重要課題はなんと言っても、「第二部問題」であり、大学に設置された委員会での検討が加えられております。具体的には、第二部改組およびそれに伴う新学部設置の可能性が検討され、経済学部と致しましては委員会での結論を待っている段階であります。50年の間、経済学部は度重なる改組を経験いたしました。今回も、過去に経験したこれらの大幅な改組・変革に勝るとも劣らぬ水準の学部組織変更であり、まさに21世紀の経済学部のあり方が問われる問題として位置づけられます。

このような激動の折り、学部長に就任いたし、今、力不足を痛感いたしておりますが、教員・職員の皆様にご協力、ご助言を頂き、できうる限り適切な対応をとるべく、最大限の努力を傾けていく所存であります。同窓会会員の皆様におかれましても、現在経済学部がおかれておりますこの状況をご理解いただき、21世紀の新しい学部構築のために、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第5回 2003年度年次総会・講演会・懇親会 (速報)

2003.6.5 (木) アイビーホール青学会館B1 サフランの間



2003年6月5日(木)に77名の会員が出席して年次総会が開催された。

総会・講演会・懇親会の詳細報告は次の会報(第8号)にゆずりますが、第二ステージを迎えた経済学部同窓会の新役員が決定したので速報いたします。なお役員退任者のご挨拶と新任者のご挨拶は、次号に掲載いたします。

新役員 会長 森 啓 (S33卒) 新任
副会長 石井 信之 (S41卒)
〃 梅田 澄子 (S48卒) 新任

幹事長	富田 直	(H5卒)	新任
副幹事長	佐藤 剛	(H5卒)	新任
会計委員	天野 知恒	(S31卒)	
〃	清水 美子	(S39卒)	新任
事務局長	磯部 守孝	(S53卒)	新任
副事務局長	大田原 真美	(S63卒)	
監査委員	室伏 孝一	(S29卒)	新任
〃	桃澤 秀夫	(S30卒)	新任

退任：榎本 弘会長、川野 繁副会長、室伏 孝一幹事長
藤吉 邦通会計委員、大賀 禮事務局長
寺田 孝行監査委員、水澤 郁夫監査委員。

経済学部同窓会会員は今……

ますます元気、今を生きる!

「お客様の笑顔が嬉しい国際線乗務」

盛本 かおる (1996.3経済学科卒 川崎市在住)



たが)

早いもので大学卒業から7年が経ちました。大学卒業後、日本航空に入社し2年間の国内線乗務の後、現在は国際線に乗務しております。学生時代の旅行先はアメリカばかりだったので、今まで行ったことのない国へのフライトはドキドキしてガイドブックを持って行ったものでした。(フライト先も限られているので、最近では主要都市は地図無しでも歩けるようになりました)

お客様や親戚、友人から「時差もあるし大変な仕事だね」とよく言われますが、私は今までこの仕事を辛いと思ったことは一度もありません。確かに24時間以上起きていることはよくあるし、お食事の入っているカートは100kg近くあるし、機内は乾燥しているからお肌はハサハサだし…。国際線ですから世界情勢も関係してきます。米同時多発テロ直後でもNYには行きますし、イラク戦争の時も特にスケジュールの変更はなし、現在こんなにSARSが騒がれているにも関わらず中国ステイももちろんします。それでも続けられるのは「お客様の笑顔を見られる」からだと思います。もちろんステイ先でのオフの時間も楽しいのですが、搭乗中は不機嫌だったのに笑顔で飛行機を降りて下さる方にお会いした時はとてもうれしく思います。

しかしそんな私も最近では体力の衰えを感じ始め、かつ昨年末に首を痛めてしまったのをきっかけに、ジムのヨガ教室に通い始めました。ハリウッドで流行っているというミーハーな気持ちもあったのですが、もともと肩から背中にかけての凝りがひどく、マッサージの先生にも「ストレッチをして下さい」と毎回言われていました。体の歪みも治るし精神安定にもよいのではと思います、時間の許す限り通っています。

客室乗務員を長く続けるコツ、よく食べよく寝て体も心も若返ること。余裕のある心でこの仕事を続けていこうと思います。(ただしプライベートが疎かにならない様に程々に…)



「経済学部同窓会に入会して」

小峰 あずさ (本名・梅澤みの里、1992.3経済学科卒 東京都在住)

私の職業は、「演歌歌手」です。自分としては至って自然なのですが、青山学院大学を卒業して珍しいネ!とよく言われます。平成10年に青学を卒業してまず、証券会社(山一)に就職しましたが、当時はバブルもはじけその対応に追われる毎日でした。つくづく自分の人生というものを考えはじめ、歌が好きだったこともあり演歌歌手へ転職しました。

そして、今から2年前の青学祭で歌わせて頂き、心優しい幹事の方(下氏)と知り合いになり、初対面にも関わらずその場で私の後援会に入会して頂き…その方の勧めで経済学部の同窓会に入会しました。

おかげで昨年の11月には東京でのフェスティバルも成功し、4月には新曲「水仙岬」の発売、今年の11月1日には「五反田ゆうほうと」でのコンサートと、デビュー10周年にふさわしい、「実りある年」でありたいと思っています。これからも人との出会いを大切に、「青学魂」で、厳しい演歌道を歩んでいきますので、青山学院大学経済学部同窓会の皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「今日この頃」

関谷 佳枝 (1962.3経済学科卒 藤沢市在住)



小学生30人が横一列になって、それぞれ隣の子の片足を結んで走る三十人三十一脚の競争がテレビに映っています。それをさっきから、よくも飽きもせず、じいっと食い入るように見ている私の夫は、同じ青学の先輩(1959.3卒)で、一昨年の秋に65才で仕事をリタイア致しました。台所の仕事を終え、私も夫の横に座り、この小学生達の三十人三十一脚と一緒に見ていました。スタートからゴールまで9秒前後で子供達は一生懸命に走り、ゴールへ走り込み、参加各校とタイムを競い合い、そして勝った子供達も負けた子供達も涙顔を見せていました。その子供達の真剣さに、見ている私達もある種の感動に、少し涙がこぼれたり致しました。二人三脚でも大変なのに、よくまあ30人が一糸乱れず走れるものだと妙に感心致したものでした。

二十数年ぶりに江の島の橋の際に流氷込む境川の近くに帰り住むようになって、やっと一年が経ちました。東京に住んでいる間に三人の子供達は、それぞれ独立し、各地にそれぞれが所帯を構えており、今は夫と二人住まいとなっております。私共が住むこの辺りは、以前住んでいた東京に比べますと、それはまだまだ自然が一杯で、前述の境川沿いを散歩していると、カワウが時折、水に潜ってはボラのような魚をくわえて「鵜呑み」にしているのを見かけたり致します。川の上ではトンビが上空から川面まで降りてきたり、何か時の流れが緩やかになっているように感じたり致します。

老境に入った私も夫との二人三脚を転ばないようにまだまだ一所懸命に走り続けるようです。あの小学生達の元気に負けないように。

「二部リーグの野球部を応援した学生時代」

福田 勝 (1968.3商学科卒 福岡市在住)



私は、高校時代は青学を知りませんでした。高校を卒業の年、国立長崎大学経済学部を受けましたが、手も足も出さず不合格。二期校は受けず、予備校「九州英数学館」に行って来年を期しました。しかし、理数系の成績が伸びず、国立大学をあきらめて、英団社だけの私立大学に志望校を変更しました。第一志望はまぐれ合格を期待して慶大商学部、第二志望は明大政経学部、第三志望は拓大政経学部と決めました。その後、いどこが東京にお嫁に行くと、そのご主人が青山学院大学卒と聞いて、第四志望に青山学院大学経済学部商学科を加えました。予想通り慶大は落ちましたが、明大・拓大・青学大に受かりました。受験のため学校を下見した時、青学大が一番見抜けていたので、急遽明大・拓大をやめて青学大に行く事にしました。母に明大から青学大に気が変わったと言いました。母が福岡の父にその旨を告げ、父から勝が行きたいのなら青学大に行っても良いとの許可が出て、明大を止めて青学大に行く事にしました。

青学時代は野球観戦ばかりしていました。登校時、正門から入ってすぐ左の学生会館に、今日何時から神宮第二球場で青学の試合がある旨の看板が立っていたら、授業はほったらかして、応援団以外ほとんど客が居ない球場で、青学を必死になって応援していました。東洋大と一回、芝浦工大と一回、計二回入れ替え戦が行なわれましたが、二回とも負けて四年間青学大は二部でした。今、一部で明治神宮球場で青学が試合をしているのが夢みたいです。

学生野球ばかりでなく、後楽園球場の西鉄ライオンズ対東映フライヤーズ、東京球場の東京オリオンズ対西鉄ライオンズの試合観戦にもよく行っていました。後楽園球場も東京球場もバリーグの試合はガラ空きなのに、セリーグ、特に巨人戦は観客が超満員でした。その原因は、巨人が強くてセリーグの人気があり、巨人の強さが王の強打によると思い、渋谷のビルの屋上で、一本足打法の研究に明け暮れた青学時代でした。



平成14年度幹事会・講演会開催さる

2003.1.20 (月) アイビーホール青学会館3F ナルドの間

経済学部同窓会平成14年度幹事会・講演会が、2003年1月20日(月)午後6時より80名の同窓会幹事が出席して開催された。

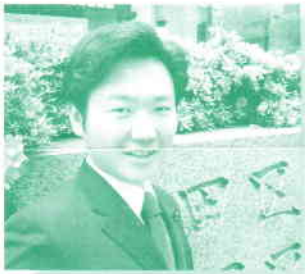
室伏幹事長の司会で始まり、富田副幹事長の開会祈祷に続いて、榎本会長が、「経済学部同窓会も4年をむかえ、少なからぬ創造の苦しみを乗り越え、第二ステージへの発展の土台が出来た。会報アオヤマ・オイコス・ノモスも第6号を発刊するまでになった。校友会大学部会との関係も、他の学部・学科同窓会との連携をしつつ、その正しいあり方を模索中である。こうした中で、創造と継承、そして成長と発展のために、幹事の皆様、会員の皆様と、同窓会の目的達成の思いを一つに共有して、着実に進展して行きたい」と述べた。ご来賓の堀場勇夫 経済学部長からご挨拶をいただいた。

榎本会長が議長になり、議案の審議に入った。石井副会長より平成14年6月22日総会以降の活動報告、天野会計委員より平成14年12月末現在の会計報告があった。川野副会長より、次期役員候補選出の件と会員名簿の作成について議案が出された。次期役員選出では、現在、榎本会長は校友会会長の要職にあり、また川野副会長も校友会副会長の要職にあるので、二つを兼務することは厳しい状況にあり、同窓会の会長、副会長は交代することになる。会員名簿は平成11年会発足時に作成以来作られていない。作成する会員名簿は全会員を掲載することが望ましい。財政面を考慮して企業から広く広告を募集して資金捻出を検討する。それぞれ総会までに常任幹事会に一任し、詰めてもらうことになった。

司会を門川常任幹事に替って、午後7時40分より就任以来10ヶ月目を迎えて超ご多忙の中田 宏 横浜市長(同窓会幹事)に、「雑感：横浜市長に就任して」と題してご講演いただいた。歯切れの良い爽やかさを感じさせる、熱のこもった話しは、時に同窓ということで普通聞けない内容も交え語られ、あっという間の1時間であった。

田中 健君 大田区議に最年少で当選！

文責・梅田 澄子(1973.3経済学科卒 大田区在住)



平成13年経済学部卒業の田中 健君、25歳、大田区議会議員選挙に初挑戦して、見事4,819票を獲得して7位当選を果たした。

金なし、地盤なしで、苦戦を強いられていたが、持ち前の明るさと若さで、周りの人を引き付け、動かし、大きな力へと変えていった。政治家になるには、これが大事な事のひとつで、

自分の考えに賛同してくれる人の輪を大きく拡げていける資質がなければなりません。彼には、友を動かし、同志を動かし、大田区民を動かす力があったのです。それは、25歳にして政治家になる資質を備えた素晴らしい逸材だと実感させられるものです。

2ヶ月程前、磯部さんと田中君とタクシーに乗った折、田中君の熱意に3人で話が盛り上がった。田中君が降りた時に、タクシーの運転手さんが、「今、降りた人の名前を教えてください。僕も大田区民なので、彼に投票します」と、言ってくれました。私は、喜んで後輩の説明をしました。きっとあの時の運転手さんも彼の人格と可能性にかけて一票を投じてくれたことと信じています。彼に接した人が彼に協力したくなる素晴らしいエピソードだと思います。

まだまだ、すべてが未知数、されどその意欲とパワーは計り知れないものを感じます。いつまでも、今持っている正義感と使命感を失わず、憧れの田中 宏横浜市長を目指して頑張ってください。今後の活躍に期待しています。

INFORMATION

- ◆2002.11.26 拡大役員会 17名
- ◆2002.12.20 第4回常任幹事会 15名
- ◆2003.1.20 平成14年度幹事会 80名
この度ご就任の堀場勇夫経済学部学部長にご挨拶
いただく。
講演・「雑感。横浜市長に就任して」中田 宏
横浜市長 (経H1卒、同窓会幹事、前常任幹事)
- ◆2003.2.5 第5回常任幹事会 18名
- ◆2003.2.24 役員会 7名
- ◆2003.3.18 第6回常任幹事会 18名
- ◆2003.3.25 学位授与式で卒業生の入会勧誘実施
対象・経済学部一部499名、同二部229名、大学院
修了生3名。
- ◆2003.4.15 第7回常任幹事会
- ◆2003.5.20 第8回常任幹事会 18名
- ◆2003.6.5 平成14年度総会 77名
通常議案の他、任期満了による会長はじめ役員の大
幅改選があった。
講演・「9.11以降の国際政治」土山貴男国際政治
経済学部教授
懇親会アトラクション・演歌、小峰あずさ
(本名・梅澤みの里、経H4卒、同窓会幹事)



2003.6.5 年次総会・講演会にて 土山貴男教授



2003.6.5 年次総会にて
左から、石井副会長、堀場学部長、榎本会長、土山教授



2003.6.5 年次総会・
懇親会にて
森 啓 新会長

- ◆2003.7.15 会報第7号発刊 (May 15, 2003号)
- ◆2003.9.23 第10回大学同窓祭 (経済学部同窓会は開会礼拝
を担当)

AONサロン

アダム・スミスは神学も教えた (本当の話)

東方敬信

『国富論』を記したアダム・スミス(1723年~1790年)は道徳哲学者であった。彼は、1752年からグラスゴー大学の道徳哲学講座で教え始めたが、彼の道徳哲学は、第一部自然神学、第二部倫理学、第三部自然法学、第四部政治経済学というものであった。この第四部が『国富論』になって、経済学の父といわれた。しかし、商品の生産・分配・消費という経済活動は、それだけで考察されるものではなく、広いモラルの領域から考察されるものであった。環境問題や企業の社会的責任の問題に見られるような課題を考えなければならない時代に、私たちは道徳哲学の枠組みの中から経済活動を点検する必要もある。通常は、神学と経済学またキリスト教と経済活動は、両極端にあると考えられている。しかし、神学と経済学は必ずしもミスマッチではないのである。

ところで、アダム・スミスは、意図しない仕方で、いつの間にか神の目的に協力してしまうのが、人間の心に埋め込まれて秘密のシステム(secret mechanism)であると考えている。それが「公平な観察者の目」を意識することである。別の言葉でいえば、彼は「良心」や「胸中の半神」といったりしている。さらに、アダム・スミスの「道徳哲学」全体で考えると、彼の考え方の中には社会で「利他心」が働くという主張も見られる。彼のモラル・フィロソフィーには、政治学という部分がある。それは、政治担当者が、理性に基づいて、人々を社会全体の福祉と平和へと促していく責任を語っている。スミスは、この政策作成者のもつべきものを「積極的利他心」という。それに対して、消極的利他心というのは、他者の権利や財産が損害を受けるときにあらわれる正義の要求であり、政府が権力を用いて個人の人権や財産を守るという責任である。これが司法の役割となる。このような政治学において機能する積極的利他心と法律によって犯罪を抑制する消極的利他心によって、社会に生きている人々は、意図しない仕方で、人類の幸福をもとめている神の目的への協力者になるのである。

編集後記

▶一面の堀場勇夫 経済学部学部長にはお忙しい中、4月末日にご寄稿いただきました。感謝 ▶一面下段の6月5日総会速報では、第二ステージに入った新役員を紹介しました。このため発刊日が遅れましたことをお詫び申し上げます。▶三面の平成14年度幹事会報告と四面のINFORMATIONは、大賀 禮事務局長にお世話になりました。▶毎回大学教授に交代でご担当いただいている、四面のAONサロンには、この4月1日付けで学院宗教部長にご就任なされた東方敬信教授にご研究の余滴として5月20日にご寄稿いただきました。感謝 ▶二面の経済学部同窓会会員は今.....ますます元気、今を生きる!には、突然ご寄稿をお願いしましたが、ご多忙の中を快くお引き受けいただきました。感謝 ▶三面の会員名簿の訂正と消息は、富田副幹事長にお願いしました。▶さて、同窓会設立準備の段階から参加させていただき、同窓会の会報を第1号から第7号まで発刊させていただきました。そして、この第7号の発刊をもって編集長の任を解いて頂きました。この間、皆様からの無私のご奉仕に支えられて来ました。特に、編集員としてご奉仕いただいた、西尾隆司(商37)、清水美子(経39)、石井信之(経41)、相川和宏(商44)、松原優子(経46)、本郷茂(経47)、梅田澄子(経48)、磯部守孝(経53)、相原一浩(経58)、花岡雅夫(経H7)の10人の方々には大変にお世話になりました。ただただ、ありがとうございます、と申し上げます。(門川光雄・経35)

青山学院大学経済学部同窓会会報 第7号

2003年5月15日発行

発行者 榎本 弘

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

(青山学院大学経済学部・石井信之研究室内)

〒150-8366東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111 (内線12817)

<aogaku-kei.dosokai@jcom.home.ne.jp>

皆様からの情報やご投稿は下記私書箱へ!

〒150-8691渋谷郵便局 私書箱145号